

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力
- 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
- 3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標（R2年度～R4年度）

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

ア 遅刻指導と身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図ることで、遅刻「0」の学校をめざすとともに基本的生活習慣を確立させる。

※R4年度には年間遅刻総数を1500件以下の状態をめざす。（H29:2,727件 H30:2,011件 R1:1,697件）

イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図ることで、規範意識をはぐくむ。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H29:90.8% H30:92.9% R1:94.8%）をR4年度までに95%以上に引き上げて維持する。

(2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

ア 学校行事・HR活動の「質の向上」を通して生徒の自己肯定感と自己有用感を高める。また、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援することによって、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるようにする。

※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（H29:72.5% H30:72.3% R1:74.7%）をR4年度には80%以上とし、生徒向け学校教育自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率（H29:85.3% H30:84.9% R1:85.5%）をR4年度には90%以上とする。

イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、吹高見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。

※部活動の加入率（H29:47.4% H30:48.9% R1:55.7%）ならびに部活動に対する満足度（H29:75.0% H30:84.9% R1:86.4%）を引き上げ、R4年度には加入率を60%以上、満足度を90%以上をめざす。

ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め尊重していくことのできる精神をはぐくむ。

※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H29:74.3% H30:78.4% R1:77.4%）を毎年引き上げ、R4年度には80%以上に引き上げる。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。

ア 「進路のてびき」を作成し系統的な進路指導を継続するとともに、1年生から3年生までの学習進捗に応じた計画的進学講習を定着・発展することで生徒の進路実現を図る。

※進学講習への参加者の満足度をR4年度には80%以上とする。（R2新設）

イ 進路検討会議を定例化し、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認することで、3年間の長期的展望にたった具体的な支援策をチームで実施し、生きる力をはぐくむ。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H29:81.7% H30:85.6% R1:86.8%）を毎年引きあげ、R4年度には90%以上を維持する。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

ア 公開授業や研究授業の定期実施、授業アンケートによる綿密な分析、シラバスの充実、ICTの活用促進等のさらなる授業改善に組織的に取り組むことによって基礎学力の定着を図り、主体的に学び続ける力をはぐくむ。

※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度の平均（H29:3.15 H30:3.19 R1:3.16/満点4.0）をR4年度には3.20以上に引き上げ維持する。

イ 放課後講習を充実させるとともに、個別自習室・図書室・食堂等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させることで、生徒全体の学力の向上を図る。

※2年次1月の基礎学力調査の結果（Cゾーン以上 H29:20% H30:20% R1:24%）を段階的に引き上げ、R4年度には25%以上に引き上げて維持する。

ウ 1年生での計画的なキャリア教育・進路指導を通して、2年生からの進学クラスを開設し、意欲的に学習活動に取り組む態度をはぐくむ。

※1年生終了時でのキャリア教育に関する肯定率（R1新設:82.4%）をR4年度には85%以上に引き上げて維持する。

(2) 生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実

ア 学習指導要領の改訂に基づいた教育課程や総合的な探究の時間の活動計画を作成し、取組みを実施することで、グローバル化・情報化等の社会の加速度的変化に対応できる「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する。また、学校全体として道徳教育の充実に努めることで、豊かな情操や人間性をはぐくむ。

イ 放課後講習を取り入れた70期生以降の「進学クラス」に対しても、進学クラスPTを中心とした学力向上に向けた取組みを組織的に実施することによって、難関・人気大学へ合格する力を育成する。

※R4年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関および人気大学への合格者を、四年制大学合格者全体の30%以上を維持する。（R1新設:38%）

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月1回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見・対応を図る。加えて、特別支援サポート委員会、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用等を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。

※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率（H29:82.4% H30:81.2% R1:77.8%）を引き上げ、R4年度には平均85%以上をめざす。

イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。

※生徒・保護者の清掃に関する項目の肯定率の平均（H29:65.6% H30:68.4% R1:70.3%）をR4年度以降も70%以上で維持する。

ウ 関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施することで、防災・安全対策をすすめ、安全で安心な学校づくりに努める。

4 校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取組み、保護者ならびに地域との連携の強化

(1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。

ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。

イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。

ウ 校内研修（事務会計、要配慮生徒情報、個人情報取り扱い、最新の救命救急等）を職員会議でのミニ研修を含めて実施し、常に学び続ける教師集団を形成する。

(2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努めるとともに、全校一斉退庁日及びノークラブデーを活用し、教職員一人ひとりの意識改革を推進し、勤務時間管理及び健康管理を徹底させる。

校内メールや共有フォルダによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図ることによって、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。※教員向け学校教育自己診断等の校務の効率化に関する項目の肯定率（H29:75.6% H30:65.3% R1:76.2%）をR4年度以降も75%以上で維持する。

(3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。

体育祭・文化祭などの学校行事や人権に関する職員研修などへの保護者の積極的な参加を図るとともに、これまで連携してきた地域の教育機関との連携を深化させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和2年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>■生徒指導 規範意識に関する項目の平均肯定率は、年々上昇し96.3%になった。「指導をされ、ペナルティーを課されるから」ではなく「自分の成長」や「周りへの迷惑」を考えて生徒自身が自らを律することができることをめざして、引き続き遅刻指導や身だしなみ指導などを生徒の現状に合った形で続けていきたい。</p> <p>■生徒会活動 学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率は87.5%であった。今年度の体育祭は学年ごとの分割実施となったり、文化祭がオンライン文化部発表会となったが、いずれは準備・運営の大部分を生徒たち自身で行えるようになることを最終の目標にこれまでの取組みを継続していきたい。</p> <p>■クラブ活動 クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率は83.7%と高いが、加入率は50%程度で推移している。新入生が入りやすい仕組み作り、他の部で頑張っている生徒の活動に関心を持てるような機会を提供できるような工夫を検討していく。また、教職員の多忙化の中、持続可能なクラブ活動の形態を模索していきたい。</p> <p>■互いを認め合える集団づくり 人権に関する項目における肯定率は80.4%であった。生徒の小さな変化に気づけるよう、担任をはじめとした教員集団によって日常的に見守り、組織的な関わりをさらに深めていく。また、本校独自のいじめアンケートも有効に活用しながら、その兆候の早期発見・対応に努めることで、生徒から信頼され、安心して過ごせる学校となるよう努力していきたい。引き続き、コロナ禍の中、新たな人権侵害が起こらないように努める。</p> <p>■進路指導 生徒の進路指導に関する項目の肯定率は87.4%となり、学校の取り組みが生徒に理解され浸透していると分析できる。ただ、本校生徒の進路希望は多岐にわたることもあり、更なる指導の充実に向け、3年間を見通した「吹田進路プログラム」の内容をさらに精査し、進学講習、科目選択説明会、進路HR、保護者説明会等の日程設定や順序にも留意し実施していきたい。</p> <p>■授業改善 教員の授業力改善に関する項目の平均肯定率は79.3%であった。年に2回実施する授業アンケートの振り返りや公開授業等を通して、すべての教員が自らの授業技術を磨く機会を積極的に設けた。生徒1人1台の端末導入に備えてICTを取り入れた更なる指導方法の改善に努める。また、観点別評価の本格実施を控え、指導と評価の一体化を意識した取り組みを進めることで、引き続き総合的な授業力の向上に努めていきたい。</p> <p>■教育相談・支援教育の充実 教育相談に関する項目の肯定率は生徒70.5%、保護者87.9%であった。生徒自らが持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談や支援教育の果たす役割は、ますます大きくなってきている。引き続き、みかん会議やサポート委員会を機能させ、スクールカウンセラー等の指導を受けつつ、一層充実できるよう環境を整えていきたい。</p> <p>■校内美化 清掃に関する項目の肯定率は、生徒82.1%・保護者73.7%（平均77.9%）となり、年々上昇している。校舎が老朽化して限界があるとはいえ、自らの学習環境を清潔に保とうとする意識は着実に向上していると分析できる。将来の社会生活を行う上でも大切な意識であるので、自分たちの学校の美化は自分たち自身が責任を持って取り組むという意識を持てるよう、日々の清掃指導やクリーンキャンペーンなどの行事を継続していきたい。また美化指導に加え、コロナ禍の中、引き続き衛生面の意識の向上も図りたい。</p> <p>■校務の効率化 教員の校務の効率化に関する項目の肯定率は、71.2%となり、昨年より少し下がった。LINE WORKS や校内メールで情報共有の利便性は進んだが、端末操作の煩わしさを負担に感じた人もいた。また、会議が満足に開けない中、校内メールのみで情報共有をしたことにより、全体として教職員の動きが悪くなったととらえられた。限られた時間の中、教職員の指導方針の方向性をそろえるためにも、引き続き情報伝達の方法を模索していく。</p>	<p>第1回 (7/15) ○R2年度学校経営計画について ・学習支援クラウドサービスで生徒全員とつながり、授業や課題の配信ができているとのことだが、プリンターのない家庭もあるので、そこは意識して第2波に備えてもらいたい。 ・コロナ禍で、いままで積極的に取り組まれてきた博物館等との地域交流や大学へ出向いての体験プログラムができにくい状況でしょうが、できる範囲で維持してもらいたい。 ・教室のドアノブ・スイッチなどの消毒作業は基本的に先生方が行っているということですが、その姿をみて、高校生はマスク着用の徹底などの意識を高めてもらいたい。 ・就職希望者の面接解禁が1か月後倒しになり進学指導とバッティングするが、十分に整理をして進路指導に当たっていただきたい。</p> <p>第2回 (1/8) ○生徒指導について ・不注意による遅刻と課題を抱えての遅刻は分けての指導が必要でしょう。ただ、総数としては減らす目標も必要なことも理解できます。分析を生かして指導をしてほしい。 ・登校時の生徒の自転車マナーについては、改善の兆しが大いに見受けられますが、やはり登校時間ぎりぎりの生徒の自転車通学のスピードは、高齢者にとって恐怖を感じるものがあるので、引き続き指導をお願いします。 ○学習・授業について ・コロナウイルスが終息に向かわない中で、ICTによるオンライン等の授業ができていることは十分にアピールできるポイントだと思います。HP等で広報すればどうか。 ・「ベル着運動」が定着できているようで、根気よく引き続きご指導いただきたい。 ○行事・クラブ活動について ・主顧問の希望者がいない部活動についても、多くの副顧問を配置するようにして生徒の特別活動を支えていただいていることを非常に有り難く感じている。学校だけでは解決しないので、外部指導者の利用や社会全体でカバーすべき問題だと認識している。 ○進路指導について ・コロナ禍にあって3年生の進路指導には、大変なご苦労があったと推察している。1・2年生でも、今年状況から進路への不安を抱えている生徒もいると思うので、丁寧に指導を進めていただきたい。 ○保健・教育相談について ・クリーンキャンペーンは、極めて良好な活動であると思います。また、コロナ禍にあって衛生面や健康チェックの指導が例年以上に大変でしょうが、宜しくをお願いします。</p> <p>第3回 (3/25) ○行事・クラブ活動について ・部活動の活性化に取り組んでおられるが、教職員の肯定率が50%程度で推移していることはある意味仕方ないことかも知れない。それは、放課後講習、土日の付き添いなど教職員の働き方改革にも絡む多くの問題があるからだと思う。根本は、生徒と先生の部活動の関わり方をどうするかだと思います。 ・行事が学校全体で組織的に取り組めていないという否定的な回答が4割程度いることが気になります。コロナ禍で、行事が大きく変更されたようですが、こまめに情報共有をしていただき、生徒のために、組織的に動いて欲しい。 ・クラブに参加している生徒の満足度調査の数値が高いことは良いことですが、何が満足につながり、何が満足につながっていないのかを丁寧に分析していただきたい。 ○保健・校内美化について ・清掃が徹底されているかという質問に対する肯定率が、過去に比べれば上昇しているが、決して高いとは言えない。施設の老朽化のことも影響しているのでしょうが、日々の生活の場であるので、引き続き全教職員で取り組んでいただきたい。 ○生徒指導について ・様々な原因による遅刻があるので、一定数より下がらないことは仕方がないことでしょう。これまでの取組みを継承して、生徒の時間に対する自己管理能力を養ってあげてください。 ○進路指導について ・進学クラスを2年生からスタートさせるなど、生徒のニーズに合うよう、マイナーチェンジを図りながら進めておられることはとても評価できることです。 ・学校斡旋就職希望者の就職率100%を続けておられることも素晴らしいことで、それを上手にアピールして生徒募集につなげていただきたい。 ○防災教育について ・地震などの災害に備えることはとても大切なことです。毎年、生徒は入れ替わるので、避難訓練をしっかりと行い、万に備えていただきたい。また、学校が「一次避難場所」に指定されていることや、学校に生徒用の備蓄食料があることを生徒にも周知して欲しい。 ○教育相談について ・課題を抱える生徒の早期発見と対応に取り組んでおられるところですが、コロナ禍でこどもの自殺が過去最多になっている。適切な対応をするために、「ゲートキーパー」の活用や「SOSの出し方に関する教育」の実践について検討して欲しい。 ○地域との連携について ・校外エリアの清掃をする「クリーンキャンペーン」を毎年されており、今年度は密を避けるために、各クラブ毎に行われたようですが、人数が少なく目立たなかった。校外であるので、全校的に取り組まれた方が良いのではないかと。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ	<p>ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、細かい目標設定を行い、本校における遅刻指導について、教員のさらなる理解を深めていく。遅刻だけでなく、欠席状況にも注意しながら基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>イ、頭髪指導において、指導経緯を再確認するとともに、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髪指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取り組みを展開する。</p> <p>ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校とが連携強化をはかるとともに、制服・ピアス等の身だしなみ指導の徹底をめざす。</p> <p>エ、学年ごとの交通安全講習会や登下校指導を通し、継続的な交通マナー指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者を中心に交通安全意識の向上をめざす。</p> <p>オ、授業マナー（バル着指導、机上整備・準備の徹底、携帯電話電源OFF等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。</p> <p>カ、3年間を通して情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。</p>	<p>ア、継続的に調査している年間遅刻件数を1650件以下とする (R1:1697件 R2:1942件)</p> <p>イ、年間の頭髪指導件数を15件以下を維持する (R1:10件 R2:12件)</p> <p>ウ、服装指導における預かり指導件数を20件以下とする (R1:17件 R2:29件)</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率90%以上を維持する (R1:94.4% R2:96.5%)</p> <p>オ、生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率80%以上を維持する (R1:80.1% R2:80.6%)</p> <p>カ、学習後の理解、認識の向上に関するアンケートの肯定率を85%以上にする (R1:81.3% R2:84.0%)</p>	<p>ア、年度末合計が1942件となり目標達成に届かなかった。【△】</p> <p>イ、年度末でのべ12件(9人)となり、こちらは達成された。定着度の高い指導になっている。【○】</p> <p>ウ、年度末の違反服装の預かり件数は29件。ピアスの指導件数は多く、指導内容を見直す必要性を感じている。【△】</p> <p>エ、肯定率は96.5% 登下校指導と違反者に対する警告など粘り強い指導で、交通マナーに関する生徒の意識が高く保たれている。【◎】</p> <p>オ、肯定率は80.6% メロディチャイムを従来の1限と5限の開始時に加えて、shortversionを各授業の開始時に流すようにした。数値のキープは、授業マナー向上の取組みが功を奏したと考えられる。【○】</p> <p>カ、例年実施している講演会は開催できなかったため、2年生の情報科の授業を中心に計画的に行い、肯定率は84.0%となった。【△】</p>
	(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ	<p>ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。</p> <p>イ、校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。</p> <p>ウ、いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 ・3年間を見据えた人権HR計画の更なる充実と円滑な実施を行う。</p>	<p>ア、生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率90%以上にする (R1:85.5% R2:87.5%)</p> <p>イ、クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率85%以上を維持する (R1:86.4% R2:83.7%)</p> <p>ウ、生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率を 生徒:75%以上、保護者:85%以上にする (R1:生徒70.1% 保護者82.2%) (R2:生徒76.0% 保護者83.5%)</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率80%以上にする (R1:77.4% R2:80.4%)</p>	<p>ア、肯定率は87.5% 体育祭が学年ごとの分散開催になるなど行事の変更を余儀なくされたが、できる限りの形を模索したことが、生徒の満足度の微増につながった。【○】</p> <p>イ、部活動に対する肯定率は83.7%【△】</p> <p>ウ、人権教育に関する項目の肯定率は80.4% コロナ禍の中、いじめアンケートなどを活用し、担当がきめ細やかな配慮を心がけた。人権教育推進委員会で集約および実態の把握をして、迅速に対応する体制は引き続き維持していく【○】</p> <p>肯定率が54.9% 組織的な連携が図れるよう、教員向けマニュアルを作成し、統一した認識を持って運営ができるように見直した。ただ、体育祭実施前にアンケートを実施したので、体育祭の状況はアンケートに反映されていない。【○】</p> <p>生徒は76.0%、保護者は83.5% コロナの影響で満足な活動ができない状況であったが、公式戦や日常の活動時の付き添いなどの役割分担をできるだけ多くの教員で担当した。【○】</p>

	<p>(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ</p>	<p>ア、3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。</p> <p>イ、各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。</p> <p>ウ、「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について改訂を行う。</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋及び公務員）に対して、より細かな指導を行う。</p> <p>オ、「進路検討会議」の定着を図り、課題を抱える生徒の進路実現に向けての課題を早期に掘り起こし、計画的支援につなげる。</p>	<p>ア、「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を6月までに生徒に提示する</p> <p>イ、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3年は2学期までに2～3回開催する <p>ウ、「進路のてびき」の内容の充実に向けた改定をし、1学期中に配付する</p> <p>エ、就職希望生徒（学校斡旋）の卒業時の内定率100%を維持する (R1:100%、R2:100%)</p> <p>オ、「進路検討会議」を、1,2年生は年1回、3年生は1学期に1回、2学期に2回実施し、必要に応じて外部機関につなぐなど適切な支援をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率85%以上を維持する (R1:86.8% R2:87.4%) ・教員向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率75%以上を維持する (R1:74.6% R2:66.3%) 	<p>ア、臨時休校の影響で進路指導の年間計画は変更されたが、模擬試験は変更なく実施できた。 【○】</p> <p>イ、学校再開後「進路のてびき」を使った進路学習を各学年とも計画的に実施できた。ただ、3年生は5月の分散登校中に「進路ガイダンス」を動画配信し、早めの動き出しを心がけた。【○】</p> <p>ウ、上述の通り、1学期中に配布して進路指導に使用した。内容は引き続き改訂する【○】</p> <p>エ、今年度も内定率は100%を達成した。【○】</p> <p>オ、3年生の進路検討会議は1.2学期に各1回実施した。例年通りの回数ではできていないので、担任会などでこまめに情報共有を図った。2年生は2学期に実施し、1年生は3学期に開催する【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定率は87.4% 進路希望が多岐にわたる中、きめ細やかな進路指導を引き続き心がける【○】 ・教職員の肯定率は66.3% 職員会議やミニ研修の場で情報共有を図ったが、回数が少なかつたので、今後はオンラインでも行いたい。【△】
<p>2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p>	<p>ア、進路指導部、学年、進学クラスPTが連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進め、自学自習する生徒への支援を充実させる。</p> <p>イ、観点別学習状況を踏まえた年間計画（シラバス）の充実を図る。年2回（7月、12月）の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。</p> <p>ウ、1年生での計画的なキャリア教育・進路指導を進める。</p> <p>エ、ICT活用授業、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内外での研究授業・研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。</p>	<p>ア、2年次1月の基礎力判定テストの学習到達ゾーンでCゾーン以上の割合を25%以上にする (R1:24% R2:24.9%)</p> <p>イ、授業アンケート結果の平均3.15以上を維持する (R1:3.16 R2:3.24)</p> <p>ウ、1年生の生徒向けのキャリア教育に関するアンケートの肯定率を80%以上を維持する。(R1:84.2% R2:88.0%)</p> <p>エ、教職員向け学校教育自己診断での授業力向上に向けての取組みの肯定率85%以上にする (R1:81.0% R2:79.3%)</p>	<p>ア、Cゾーン以上の数値は24.9% 【△】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学講習の開催が減少したが、教育産業のスタディサブリ受講者が大幅に増加した。 <p>イ、第1回第2回とも全員の平均は3.24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン課題の投げかけを積極的に行ったことも数値向上の一つと考えられる【◎】 ・観点別評価に関しては、動画にて校内研修を行った。次年度はシラバスを学習の指針として、それを活かした評価を各教科で試行する予定【○】 <p>ウ、肯定率は88.0% 体育館でのガイダンスができない中、クラス単位で担任が丁寧に実施しモチベーションづくりを図った。【◎】</p> <p>エ、肯定率は79.3% 各教室に大型モニターを設置し、ICT機器の利用は着実に進む一方、マスクをしていても対話的な活動が制限された【△】</p>
<p>(2) 生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実</p>	<p>ア、学習指導要領の改訂を見据え、吹田高校生の力を育成する新たな教育課程と総合的な探究の時間の活動内容の検討を進め、編成・策定する。</p> <p>イ、大学や地域機関との連携を継続し、学校全体の教育力を更に向上させる。</p> <p>ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。また、土曜講習・放課後講習を含めての円滑な進学クラス運営を行う。</p> <p>エ、異なる文化や習慣を尊重する精神を養い、国際的な視野を育てるため、国際交流の機会を利用する等、系統的な指導を行う。</p>	<p>ア、カリキュラム委員会や将来構想PTなどで教育課程の検討を継続し、編成・策定する。</p> <p>イ、大学・博物館など今まで交流のあった機関と引き続き連携をする。</p> <p>ウ、土曜講習・放課後講習に対する満足度を70%以上にする (R1:65.6% R2:79.8%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者を四年制大学合格者全体の30%以上を維持する (R1:38% R2:41%) <p>エ、異文化理解・多文化共生や日本文化について希望者を対象にした探究活動を2回以上実施する (R1:2回 R2:2回)</p>	<p>ア、新教育課程編成の議論は順調で、仮決定まで進んだ。また総合的な探究の時間の活動内容に関してもPTを作成して議論をしている。 【○】</p> <p>イ、2年生進学クラス向けに高大連携講座を実施して、大学進学への意識向上を図った。【○】</p> <p>ウ、土曜講習・放課後講習に対する満足度は79.8% 進学クラス対象の講習は、各教科の講習以外に高大連携講座を開き、好評だった【◎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左記レベルの合格数は四年制大学合格者全体の約41%となった【◎】 <p>エ、外国語専門学校のグローバル体験プログラムに2年生進学クラス生徒が参加した。1年生については進学クラスの生徒が決定してから実施する予定。【○】</p>	

3 心身ともに健康であり続ける力の育成	心身ともに健康であり続ける力を育てる	ア、・多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議（みかん会議）で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・特別支援サポート委員会と連携・協働し、合理的配慮が必要な生徒の早期発見に努め、スクールカウンセラーや関係機関と連携して、個別の支援方法（支援計画の作成等）を検討する。	ア、生徒・保護者向け学校教育自己診断での の教育相談に関する項目の肯定率が生徒と保護者の平均80%以上にする (R1:平均77.8% R2:平均79.2%) ・学校医、学校歯科医による健康相談を年間7回以上実施する。 (R1:9回 R2:8回)	ア、教育相談に関する肯定率の平均は79.2%であった(生徒70.5%、保護者87.9%)【△】 ・生徒情報会議（みかん会議）を年間8回開催し、要配慮生徒の情報共有を継続して行った。発達障がいを含む障がいのある生徒については、支援教育コーディネーターや進路指導部と連携し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざして継続した指導・支援を行った。 ・コロナ禍であったが、学校医、学校歯科医による健康相談は年間5回実施することができ、専門的立場から指導助言をいただいた。【○】 ・校内特別支援サポート委員会は3回実施し、障がいのある生徒に対し、必要な合理的配慮について検討し、個別支援計画・個別指導計画の作成、教職員全体への合意形成につなげた【○】
		イ、教職員や生徒保健委員会等からアイデアや意見を聞き取り、日常の校内清掃活動の充実、校内美化の推進につなげていく。 ・各行事前等の清掃徹底週間では、特にトイレ、廊下、階段などの共用エリアの美化に重点的に取り組む。 ・生徒保健委員による美化啓発活動を実施し、校内美化意識を向上させる。 ・クリーンキャンペーン等の校内外清掃を地域と連携して実施し、地域全体の環境美化に対する生徒の意識を高める。	イ、生徒、保護者向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均を70%以上で維持する (R1:平均70.3% R2:平均77.9%)	イ、清掃に関する肯定率の平均は77.9%(生徒82.1 保護者73.7)となり向上した。【◎】 ・校内安全点検は各学期1回、生徒保健委員会は、美化係2回、行事係3回、広報係1回に加えて全体会を3回開催して意識の向上につなげた。 ・生徒保健委員による校内清掃啓発活動として、啓発ポスター作成や放送などを実施した。 ・コロナ禍で十分な清掃活動はできなかったが、アルコール消毒をこまめにおこなった。 ・クリーンキャンペーンは一斉開催をやめ、各クラブごとの分散実施とした。
		ウ、生徒と教職員による定期安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。 ・関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。 ・生徒の健康課題の解決に向けた各種講習会を学年ごとに計画的に実施する。また、生徒の健康実態を把握し、生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を併せておこなう。	ウ、安全点検を年に3回（各学期1回）実施し、事務室による対応結果の確実な共有を図る。 ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率95%以上を維持する (R1:96.3% R2:96.6%) ・生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を年間5回以上実施する (R1:5回 R2:9回)	ウ、定期安全点検3回とも教職員のみで実施した。事務室と連携し、学校で可能な対応、処置については全て行った【○】 ・防災避難訓練、防災学習、救急処置講習会、デートDV予防啓発出前授業、健康教育セミナーを形態を変更して実施した。未実施分は3学期に開催予定。生徒対象事後アンケートでは肯定率が96.6%であった【◎】 ・生徒保健委員による、ポスターや保健だよりの作成、各種健康診断時の運営補助等を年間9回実施して感染症予防等に役立てた【◎】
化	(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり	ア、「基本的生活習慣・規範意識の確立」「学力の向上」「授業力向上」「新教育課程の編成」を学校全体の大きな取り組み課題ととらえ、分掌を超えての連携ならびに役割分担の明確化を行い、校長の指針のもと、運営委員会でその方針を共有し、学校全体で機能的に課題を解決する。 イ、各首席が学務グループ長、生徒グループ長として、上記横断的課題を解決するため、各分掌間の連絡調整を綿密に行う。 ウ、職員会議内のミニ研修等を活用し、「知りたい」「知ってほしい」課題についてのタイムリーな研修とする。そのことで常に学び続ける教師集団を形成する。	ア、教員向け学校教育自己診断の組織的な学校運営に関する項目の肯定率70%以上を維持する (R1:69.2% R2:55.8%) ウ、教員向け学校教育自己診断の研修に関する項目の肯定率70%以上にする (R1:60.5% R2:50.0%) ・職員会議におけるミニ研修の回数 (R1:4回 R2:4回)	ア、肯定率は55.8% 感染対策を取ったうえで、様々な行事を行ったが、いずれもが初めてのことで工夫の余地があった。組織的な運営ができるように来年度に生かしたい。 ・教職員への連絡の多くが、校内メールや文書配布となり、意見交換が不十分だった。【△】 イ、臨時休校中も、LINE WORKSなどを利用して意見交換し、教職員への指示・連絡ができた。 ウ、これまでに校内研修を4回実施したが、肯定率は50.0%にとどまった【△】 今後の大学入試について、学習支援クラウドサービスについて、SSWなどの内容を実施したが、密を避けるために動画による共有となった研修もあったので満足感が得にくかった
	(2) 校務の効率化と働き方改革	ア、校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料等を活用して報告事項の精査、資料の簡素化を図るなどして校務のさらなる効率化をめざす。	ア、教員向け学校教育自己診断の校務の効率化に関する項目の肯定率70%以上を維持する(R1:76.2% R2:71.2%) ・毎週水曜日を一斉退庁日とし、遅くとも19時までには全員が退庁することを維持する(R1:特別な時以外は実施できた R2:昨年ほどは徹底できず)	ア、肯定率は71.2% 情報共有の利便性は進んだが、そのことを「校務の効率化」に結びつけていない人が一定数いる。【○】 ・コロナ禍で行事が大きく変更され、様々な計画を練り直さなければならぬ場面が多く、個々の勤務時間は増加した。特に、部活動指導に熱心な教員の勤務時間が増え、超過勤務時間の格差が大きくなった。

<p>(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実</p>	<p>ア、学校行事・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA 等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ、広報PT が中心となり、より効果的な広報活動について引き続きトータルに検討し実施する。また、HPの更新頻度を上げ、情報発信の機会を拡大する。</p>	<p>イ、保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率70%以上を維持する (R1:75.9% R2:80.8%)</p>	<p>ア、クリーンキャンペーンはクラブごとに分散実施した。登下校時の自転車指導を継続的に行い、地域住民からの意見や要望を聞いて改善に努めた。</p> <p>イ、肯定率は80.8% 臨時休校等の連絡をメールマガジン、HP、Twitter 等を通じてスピード感をもって発信できた。校内での説明会等は実施形態を変更したが、近隣中学校での説明会等にはできるだけ参加して広報活動を行った【◎】</p>
-------------------------------------	---	---	---